

イメージ

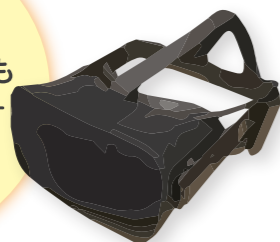
バーチャルリアリティ

VR体験・相談会 イメージ

VR体験・相談会では、走行する車からの眺望や道路上の歩行者からの眺望、沿道建物からの眺望など、様々な場所からの眺望をご覧頂くことができます。



VRゴーグルでも体験して頂けます



須磨多間線を走行する車からの眺望



周辺の離宮道や中央幹線の歩行者からの眺望



沿道建物からの眺望



須磨多間線(西須磨)

バーチャルリアリティ

VR体験・相談会 ご案内

これまでの説明会などでご質問・ご意見が多かった景観への影響について、より具体的にイメージして頂くために、須磨多間線整備後の眺望をバーチャルリアリティ(VR)で再現しました。沿道建物からの眺望など、周辺の様々な場所からの眺望をご覧頂くことができます。

また、事業に関する相談ブースを設け、皆さまからのご意見やご質問にもお答えしますので、是非、お越しください。

→次頁に6・7月に行った説明会などで頂いた主なご意見・ご質問と神戸市の考え方を記載しています。

須磨区民センター

平成29年 **11/19** 日 9:30~11:45
3階会議室

平成29年 **11/24** 金 13:30~16:45
4階会議室

須磨区役所

平成29年 **11/20** 月 13:30~17:30
4階多目的会議室

須磨区民センター

須磨区中島町1-2-3 ※駐車場は有料です



須磨区役所

須磨区大黒町4-1-1



VR バーチャルリアリティとは?



コンピュータグラフィックスを用いて現実に近い仮想空間を作り出し、自分がその中にいるように、視覚的・聴覚的に感じる類似的体験をいいます。操縦シミュレーションや体感性のゲームなどで用いられています。

今回は、須磨多間線完成後の将来、自分が周辺の場所にいると想定し、道路周辺の眺望や様子を、コンピュータ画面やVRゴーグルで様々な角度から視覚的にご覧いただけます。

「神戸市:都市計画道路須磨多間線(西須磨)整備事業【須磨区】」を選択

<http://www.city.kobe.lg.jp/information/project/construction/avenue/sumatamon.html>

事業概要やこれまでのミニニュースなどをご覧いただけます!

須磨多間線 **検索**

問合せ・連絡先

神戸市建設局 道路部工務課 電話 078-322-5491
中央区加納町6丁目5番1号(市役所2号館3階)
西部建設事務所 電話 078-742-2424
須磨区妙法寺字ヌメリ石1-1
神戸市広報印刷物登録平成29年度第521号(広報印刷物規格B-1類)



みなさまのご意見・ご質問にお答えします

本年6月・7月に開催した須磨多聞線事業に関する説明会などにおいて、みなさまから頂きました主なご意見・ご質問とこれに対する市の考え方をご紹介いたします。

主なご意見・ご質問

- 震災時、周辺道路が大混雑して救援物資の輸送に多大な時間を要した。防災の観点からも須磨多聞線を整備する意義はある。
- どの道路も様々な人が利用する。道路整備に協力すべきではないのか。
- 現在の計画ありきではなく、他案も含めて話し合うべきである。
- 西須磨地域の道路は渋滞しているのか。須磨多聞線が整備されるとどうなるのか。
- 須磨多聞線沿道の環境への影響はどうなるのか。
- 地元以外にとっては役に立つ道路かもしれないが、地元住民にメリットはあるのか。
- 地域が分断されるのではないのか。
- 景観が損なわれるのではないのか。
- 渋滞解消のため、天井川左岸線の山陽電鉄踏切を立体交差にできないのか。

Q:主なご質問 A:市の考え方

道路について

Q1 西須磨地域の道路は渋滞しているの？須磨多聞線が整備されるとどうなるの？

A 西須磨地域では、中央幹線の須磨橋東詰交差点から天井川左岸線・神戸明石線を経て、離宮公園前交差点北側までの区間において、平日の朝夕を中心に慢性的な渋滞が生じています。これは、当該道路に交通が集中することや、踏切による遮断等が要因となっています。

市では「須磨橋東詰交差点」「天井川東踏切」「離宮公園前交差点」を主要渋滞箇所として位置づけ、これまでも渋滞対策や、鉄道会社とともに踏切の安全対策に取り組んでいますが、依然渋滞が生じている状況です。

今後、人口は減少しますが、将来の全体交通量は微減に留まると推測されており、混雑は続くものと予想されます。こうした中、須磨多聞線の整備により、天井川左岸線の交通量は大幅に減少し、渋滞の大幅な緩和が期待されるとともに、交通事故や踏切事故リスクの低減等が見込まれています。

下図に車の滞留長の予測値を示しています。例えば、阪神高速月見山出入口付近では、須磨多聞線整備なしの場合、滞留長が535mであるのに対し、整備ありの場合220mとなり、大幅に低減される予測となっています。



須磨多聞線整備前後の滞留長予測結果



離宮公園前交差点 (東側を望む)

環境について

Q2 須磨多聞線沿道の環境への影響はどうなるの？

A 須磨多聞線の整備による環境への影響を把握するため、市の条例や技術指針等に準じて、大気質、騒音、振動など9つの項目を対象として、環境影響評価を平成25年8月から26年8月にかけて実施しました。

大気質や騒音の予測にあたっては、国土交通省作成の「道路環境影響評価の技術手法(平成24年度版)」に基づき平成37年の予測を行いました。

予測の前提となる将来交通量は、12,000台/日を見込んでおり、西須磨周辺では山麓線と同程度の交通量です。また、全体の幅員は27~36mであり、本線(2車線)から沿道まで概ね10mの離隔を確保し、このなかで側道、歩道、植栽などを計画します。

これらを踏まえた予測の結果、大気質は全ての地点で環境基準を満足、騒音値は、騒音を抑制する舗装(排水性舗装)などの環境保全措置をとることにより、須磨多聞線沿道の全ての地点で環境基準を満足しており、その他の項目も環境基準等を全て満足すると予測しています。

なお、道路整備後に事後調査を行い、環境保全措置の効果等、予測内容の検証を実施します。

地域について

Q3 地元住民にメリットはあるの？

A 須磨多聞線沿道周辺には狭い道路が多くあります。須磨多聞線の整備により、安全でゆとりのある車道や歩道、側道が整備され、これにより、歩行者の安全性の向上や車両の円滑な走行が図られます。また、救急車や消防車などの緊急車両、子どもや高齢者向けの送迎車両などのアクセス性が向上します。加えて、関連する生活道路の改善も行います。

道路予定地周辺に現在空き地となっている大規模な市有地があります。より良い地域づくりのため、地元の皆さんと共に、須磨多聞線の高架下周辺とあわせ公共施設や便利施設などの一体的な整備計画を策定し、地域の将来にとって有効な活用を行います。



狭隘な道路【現状】(桜木町3丁目)

Q4 地域が分断されるのでは？

A 須磨多聞線付近

須磨多聞線は2車線(片側1車線)の南北道路ですが、整備後も既存の道路(東西道路など)などは引き続きご利用いただくことができ、地域を分断することはありません。

なお、桜木町2丁目南側(幼稚園南側)の東西道路は須磨多聞線(本線部)と立体交差します。

中央幹線付近

中央幹線は平成20年に開通しましたが、交差点など各所に横断歩道が設置されています。

須磨多聞線整備後も、現在の歩道や自転車レーンは基本的にそのまましながら、中央幹線を横断する交差点などにおいては、須磨多聞線と立体交差とすることや、信号・横断歩道を適切に設置することにより、南北の移動が安全で円滑にできるよう、地域の一体性を確保します。

今後、地元の皆さまなどからご意見をお聞きし、具体的な計画づくりを行います。

Q5 天井川左岸線の山陽電鉄踏切を立体交差できないのか？

A 天井川左岸線の西側には、河川(天井川)と阪神高速道路があり、橋脚や橋桁の一部が河川上部に張り出しています。また、東側には、沿道に建物が連続しています。

道路と線路を立体交差する場合、線路との交差部に高架橋(4車線)を整備する必要がありますが、その場合、下記の状況が生じることとなり、これらを総合的に考えると立体交差化は現実的ではないと判断しています。

①現道の中に橋脚を設ける必要があることや、東側民地の沿道利用を確保するため、高架橋の東側に側道を設ける必要があることから、現道を東側に拡幅する必要があり、新たに多くの建物移転が生じます。

②天井川左岸線は多くの交通量(1日約20,000台)があり、工事中に長期かつ大規模な交通規制が必要となり、更なる渋滞が生じます。



天井川左岸線(南側を望む)